

# 市政に関する一般質問の概要

6月12日、13日に議員18名が市の考えをたしました。主な質問、答弁の要旨を紹介します。

一般質問では、市議会議員が市長などの執行機関に対して、海老名市の行政事務全般にわたってその執行状況や今後の方針などについて説明を求め、議員の考えを表明するなど、よりよい市政を目指してさまざまな議論が行われています。

今回は、市民に身近な問題を中心に、37項目の一般質問がありました。詳しい内容は会議録でご確認ください。



会議録は市役所1階の情報公開コーナー、中央図書館、有馬図書館でご覧いただけるほか、インターネット上で公開しています。

＜会議録の閲覧検索＞ 市のホームページから「海老名市議会」→「会議録検索」

また、一般質問をはじめ、本会議の様子はインターネットで録画配信しています（これは海老名市議会の公式記録ではありません）。

＜本会議の録画配信＞ 市のホームページから「本会議中継」→「本会議録画配信」

なお、生中継もご覧いただけます。



下校時の児童生徒の  
安全確保について

太平会 氏家 康太

■ えびなっ子を卑劣な犯罪から守ることは、本市の防犯対策の中で、優先順位と重要度は高いと理解しています。

通学路は犯罪者にとって格好の場所であり、魔の下校時間、魔の7歳という表現もあります。通学路で身を守るためには、教育現場での取り組みが非常に重要だと思います。そこで①児童生徒に対して現在行っている防犯啓発活動②下校時の連れ去り防止対策について伺います。

連れ去りの犯行現場や犯人を特定するために、車載ドライブレコーダーの有効性に注目が集まりました。乗車中に記録された事実に基づき、事故のトラブルから搭乗者を守るなどメリットは少なくないと思います。そこで③公用車へのドライブレコーダーの装着状況を伺います。

■（市長）：子どもたちの安全・安心の確保は最優先に考えています。新潟の女子児童の事件には大変心を痛めており、あつてはならないことだと思っています。

海老名の子どもたちが安心して通学できるよう、市長として最大限の対応をしていきたいと思います。

教育長と一緒に通学路の検証をしました。人の目が届かない通学路を人通りや車の通行が多い市道に変更すると、交通の安全確保に何千万円とかかる箇所もありますが、そういうしたものも含めて、教育委員会で検討中です。

■（教育長）：できれば市民総がかりで行っていただきたい課題です。①小学校1年生に貸与している防犯ブザーの使い方指導や、安全指導の授業で防犯の指導を行っており、警察の方を講師に防犯教室を行う学校もあります。②青パトでの巡回、通学路への防犯カメラの設置、安全監視員や立哨員の配置などを行っています。何より一番ありがたいのは下校時に地域の方々が、多くの学校で子どもたちを迎えに来たり、街角で見守ってくれていることです。

■（財務部長）：③ドライブレコーダーは平成26年度から装着を始め、現在は全車両に装着しています。



運転免許証自主返納について

公明党 福地 茂

■ 警察庁は6月、運転免許更新時などの認知機能検査で認知症の恐れがある、いわゆる「第1分類」と判定された75歳以上の免許保有者に、医師の診断を受けるよう義務付けた改正道路交通法について、施行から1年間の運用状況を発表しました。暫定値ではありますが全国で約210万人がこの認知機能検査を受け、約5万7千人が認知症の恐れありと判定されたそうです。このうち、約1万6千人が免許証を自主返納し、更新せず失効させた人が約4500人おられました。

高齢者にとって、買い物や移動手段として車は欠かせないものです。運転に不安を抱えながらも、免許証を手放せないでいる高齢者がいらつしやることも事実です。

そこで、ここ数年の本市における免許証自主返納の数についてお尋ねします。

また、現在この免許証自主返納に関する具体的な取り組みとしてはどのようなものがあるのか、加えて、市としてどのような取り組みができるのか、伺います。

■（市民協働部長）：本市の免許証自主返納数は平成26年が114件、27年が226件、28年が324件、29年が398件と、増加傾向にあります。

具体的な取り組みとしては、県が高齢者運転免許自主返納サポート事業を展開しており、免許証を自主返納し、運転経歴証明書の交付を受けた方には、商品や宿泊施設の割引などの特典が用意されています。本市では、高齢者を対象に交通安全講習会や交通安全キャンペーンで運転適性模擬検査などを実施しています。また、本市の地域性などに配慮して、高齢者に合った交通手段の確保を含めた支援策を調査研究していきたいと考えています。

## その他の質問

・市道1756号線の側溝整備について